

【表紙】
【提出書類】 有価証券届出書の訂正届出書
【提出先】 関東財務局長殿
【提出日】 2021年4月22日提出
【発行者名】 大和アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】 取締役社長 松下 浩一
【本店の所在の場所】 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
【事務連絡者氏名】 西脇 保宏
連絡場所 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
【電話番号】 03-5555-3431
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】 ダイワ/JPMオルタナティブ戦略オープン（ダイワ投資一任専用）
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券の金額】 10兆円を上限とします。
【縦覧に供する場所】 該当ありません。

．【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

2021年3月8日付で提出した有価証券届出書（以下「原有価証券届出書」）の記載事項について、当ファンドの投資対象である「システムティック・アルファ・ファンド - JPMシステムティック・アルファ（1クラス）（円ヘッジ）」が「ダイバーシファイド・リスク・ファンド - JPMダイバーシファイド・リスク（1クラス）（円ヘッジ）」に統合されることに伴い、投資対象の投資信託証券が変更となるため、本訂正届出書を提出致します。

．【訂正の内容】

<訂正前>および<訂正後>に記載している下線部__は訂正部分を示し、<更新後>の記載事項は原有価証券届出書の更新後の内容を示します。

第二部 【ファンド情報】

第1 【ファンドの状況】

1 【ファンドの性格】

(1) 【ファンドの目的及び基本的性格】

< 訂正前 >

< 略 >

< ファンドの特色 >

< 略 >

2 2つの運用戦略を組み合わせる運用を行ないます。

- 以下の2つの運用戦略を組み合わせます。

システムティック・アルファ運用戦略	純資産総額の $\frac{2}{3}$ 程度
グローバル・マクロ・オポチュニティーズ運用戦略	純資産総額の $\frac{1}{3}$ 程度

- 運用は、「JPモルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッド」が行ないます。

JPモルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッドについて

- JPモルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッド(所在地:英国 ロンドン)は、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー傘下の資産運用部門であるJ.P.モルガン・アセット・マネジメントの英国法人です。
- J.P.モルガン・アセット・マネジメントの運用資産残高は約240兆円です。(2020年12月末時点)
- J.P.モルガン・アセット・マネジメントは、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニーおよび世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。

- 原則として純資産総額とほぼ同程度のユーロ売り/円買い等の為替取引を行なうことにより、円に対するユーロの為替変動リスクの低減をめざします。

※ユーロと円の為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

ユーロ売り/円買いの為替ヘッジを行なう際、日本円の金利がユーロの金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

※ファンド内にユーロ建て以外の資産が含まれていることに起因するリスクがあります。くわしくは「投資リスク」をご参照下さい。

- デリバティブ取引等を行なうことにより、ロング・ポジションとショート・ポジションの差額がポートフォリオの純資産総額を上回ることがあります。

システムティック・アルファ運用戦略

- 金融市場の行動パターンを利用し、主としてデリバティブ取引を活用することでベンチマーク（ICEユーロLIBOR1カ月指数(円ヘッジ後)）を上回る投資成果をめざします。
- 相関の低い値動きパターンに幅広く着目し、株式、債券、通貨など様々な資産へ実質的に投資を行ないます。投資にあたっては、複数の投資戦略を選定し、デリバティブ取引のほか、株式、債券等への直接投資も行ないます。
- 市場環境等に応じて、デリバティブ取引等を通じたロング・ポジションとショート・ポジションの比率を変更します。

[戦略の例]

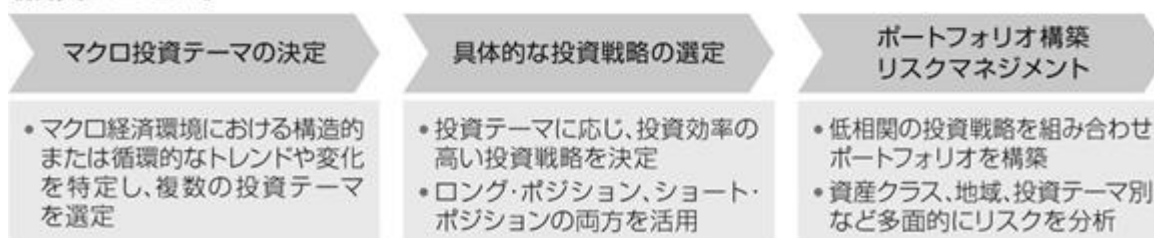
株式ロング/ショート戦略	イベントドリブン/ CB裁定戦略	マクロ戦略
<ul style="list-style-type: none"> ● 株価が割安な銘柄を買い、割高な銘柄を売る ● 株価が上昇トレンドにある銘柄を買い、下落トレンドにある銘柄を売る 	<ul style="list-style-type: none"> ● 買収される企業の株式を買い、買収する企業の株式を売る ● CB(転換社債)を買い、株式先物を売る 	<ul style="list-style-type: none"> ● 金利の高い通貨を買い、金利の低い通貨を売る ● 上昇トレンドにある株式先物を買い、下落トレンドにある株式先物を売る

(注) 上記は戦略の例であり、上記以外の戦略を採用することがあります。

グローバル・マクロ・オポチュニティーズ運用戦略

- 主として、世界各国の株式、債券、通貨等にデリバティブ取引も活用しながら投資し、ベンチマーク(ICEユーロLIBOR1カ月指数(円ヘッジ後))を上回る投資成果をめざします。
- グローバルなマクロ環境に関する複数の投資テーマを選定し、当該テーマに沿った投資戦略を組み合わせた運用を行ないます。また、ロング・ポジション、ショート・ポジションの両方を活用して機動的なポートフォリオの構築を行ないます。

[投資プロセス]

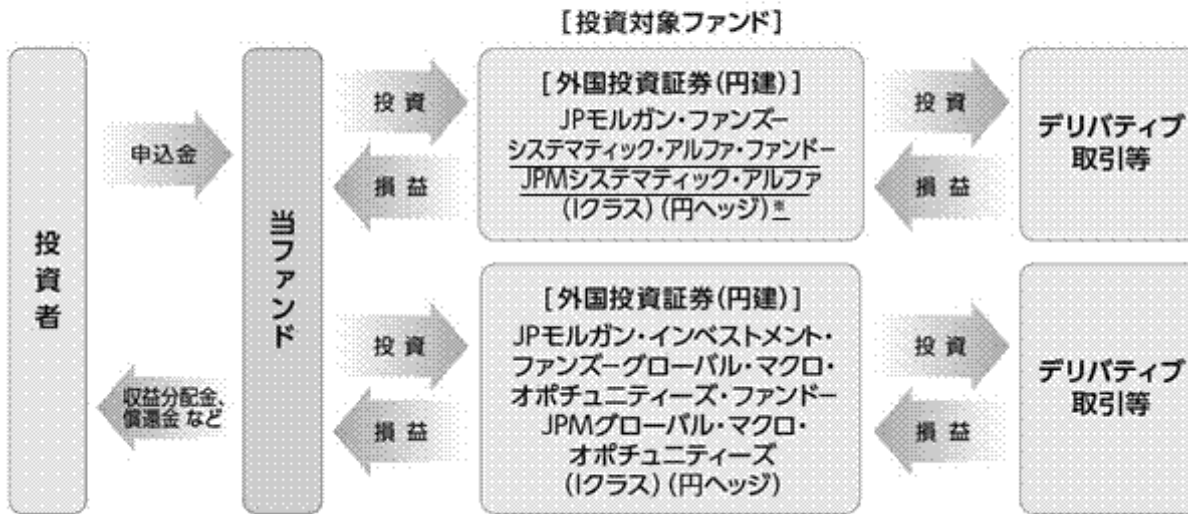


※両戦略がベンチマークとする「ICEユーロLIBOR1カ月指数(円ヘッジ後)」は、ユーロ市場の短期金利を反映したものです。

※ベンチマークを上回る投資成果を保証するものではありません。

ファンドの仕組み

- 当ファンドは、以下の2本の投資証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- 投資対象とする投資証券への投資を通じて、デリバティブ取引等を活用します。



当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、ファンドの特色2.の運用が行なわれないことがあります。

※[JPモルガン・ファンズ・システムティック・アルファ・ファンド - JPMシステムティック・アルファ(1クラス) (円ヘッジ)]は、2021年4月23日に、類似ファンドである「ダイバーシファイド・リスク・ファンド - JPMダイバーシファイド・リスク(1クラス) (円ヘッジ)」と統合します。このため、当該投資対象ファンドは「ダイバーシファイド・リスク・ファンド - JPMダイバーシファイド・リスク(1クラス) (円ヘッジ)」に変更となります。

また、これに伴い、ファンドの特色1.の「システムティック・アルファ運用戦略」という名称や当該運用戦略の内容の一部が変更となります。

< 投資対象ファンドの概要 >

1. JPモルガン・ファンズ - システムティック・アルファ・ファンド - JPMシステムティック・アルファ (1クラス) (円ヘッジ)

(以下「システムティック・アルファ・ファンド(円ヘッジ・クラス)」という場合があります。)

形態 / 表示通貨	ルクセンブルク籍の外国投資証券 / 円建
運用の基本方針	金融市場の行動パターンを利用し、主としてデリバティブ取引を活用することでベンチマーク（ICEユーロLIBOR1カ月指数（円ヘッジ後））を上回るトータル・リターンを提供をめざします。
主要投資対象	世界各国の株式、債券、デリバティブ取引（通貨に係るものを含む）等

運用方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 金融市場の行動パターンを利用し、主としてデリバティブ取引を活用することでベンチマーク（ICEユーロLIBOR1カ月指数（円ヘッジ後））を上回る投資成果をめざします。 2. 相関の低い値動きパターンに幅広く着目し、株式、債券、通貨など様々な資産へ実質的に投資を行ないます。投資にあたっては、複数の投資戦略を選定し、デリバティブ取引のほか、株式、債券等への直接投資も行ないます。 3. 市場環境等に応じて、デリバティブ取引等を通じたロング・ポジションとショート・ポジションの比率を変更します。 4. デリバティブ取引等を行なうことにより、ロング・ポジションとショート・ポジションの差額が外国投資法人の純資産総額を上回ることがあります。 5. ESG手法を用いた運用を行ないます。 6. 外国投資法人は様々な通貨建ての資産に投資することがあり、ユーロ以外の通貨建て資産については当該通貨売りユーロ買いの為替取引を行なうことがあります。また、システムティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）においては、原則としてシステムティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）の純資産総額とほぼ同程度のユーロ売り円買い等の為替取引を行ない、円に対するユーロの為替変動リスクの低減をめざします。
設定日	2014年2月10日
信託期間	無期限
決算日	毎年6月30日
収益分配	原則として分配を行ないません。
管理報酬等	運用報酬：年率0.60% 管理報酬：年率上限0.16% ただし、この他に有価証券の売買にかかる費用・税金、臨時で発生する費用、その他の税金等が実費でかかります。
申込手数料	なし
信託財産留保額	なし
投資顧問会社	JPモルガン・アセット・マネジメント（UK）リミテッド

上記は目論見書作成時点での情報に基づくものであり、今後、記載内容が変更となる場合、投資対象ファンドが変更となる場合等があります。

「JPモルガン・ファンズ - システムティック・アルファ・ファンド - JPMシステムティック・アルファ（1クラス）（円ヘッジ）」は、2021年4月23日に、類似ファンドである「ダイバーシファイド・リスク・ファンド - JPMダイバーシファイド・リスク（1クラス）（円ヘッジ）」と統合します。これに伴い、当該投資対象ファンドは「ダイバーシファイド・リスク・ファンド - JPMダイバーシファイド・リスク（1クラス）（円ヘッジ）」に変更となります。

< 略 >

< 訂正後 >

< 略 >

< ファンドの特色 >

< 略 >

2 2つの運用戦略を組み合わせて運用を行ないます。

- 以下の2つの運用戦略を組み合わせます。

ダイバーシファイド・リスク運用戦略	純資産総額の $\frac{2}{3}$ 程度
グローバル・マクロ・オポチュニティーズ運用戦略	純資産総額の $\frac{1}{3}$ 程度

- 運用は、「JPモルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッド」が行ないます。

JPモルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッドについて

- JPモルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッド(所在地:英国 ロンドン)は、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー傘下の資産運用部門であるJ.P.モルガン・アセット・マネジメントの英国法人です。
 - J.P.モルガン・アセット・マネジメントの運用資産残高は約240兆円です。(2020年12月末時点)
 - J.P.モルガン・アセット・マネジメントは、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニーおよび世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。
- 原則として純資産総額とほぼ同程度の米ドル・ユーロ売り／円買い等の為替取引を行なうことにより、円に対する米ドル・ユーロの為替変動リスクの低減をめざします。
 - ※米ドル・ユーロと円の為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。
 - 米ドル・ユーロ売り／円買いの為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が米ドル・ユーロの金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。
 - ※ファンド内に米ドル・ユーロ建て以外の資産が含まれていることに起因するリスクがあります。くわしくは「投資リスク」をご参照下さい。
 - デリバティブ取引等を行なうことにより、ロング・ポジションとショート・ポジションの差額がポートフォリオの純資産総額を上回ることがあります。

ダイバーシファイド・リスク運用戦略

- 金融市場の行動パターンを利用し、主としてデリバティブ取引を活用することでベンチマーク(ICE米ドルLIBOR1カ月指数(円ヘッジ後))を上回る投資成果をめざします。
- 相関の低い値動きパターンに幅広く着目し、株式、債券、通貨など様々な資産へ実質的に投資を行ないます。投資にあたっては、複数の投資戦略を選定し、デリバティブ取引のほか、株式、債券等への直接投資も行ないます。
- 市場環境等に応じて、デリバティブ取引等を通じたロング・ポジションとショート・ポジションの比率を変更します。

[戦略の例]

- 株価が割安な銘柄を買い、割高な銘柄を売る
- 株価が上昇トレンドにある銘柄を買い、下落トレンドにある銘柄を売る

- 債券価格が割安な銘柄を買い、割高な銘柄を売る
- 債券価格が上昇トレンドにある銘柄を買い、下落トレンドにある銘柄を売る

- 金利の高い通貨を買い、金利の低い通貨を売る
- 上昇トレンドにある株式先物を買い、下落トレンドにある株式先物を売る

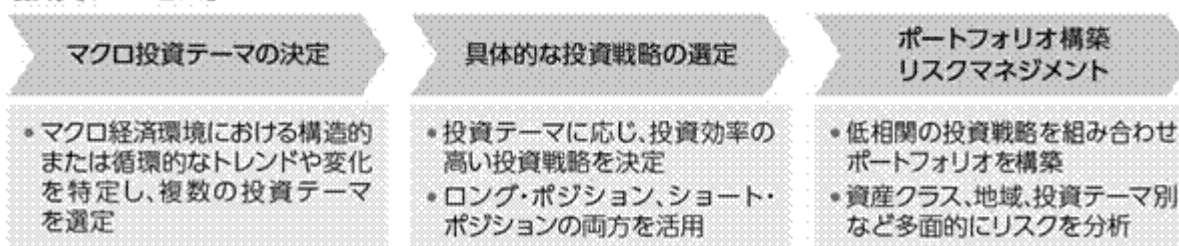
(注) 上記は戦略の例であり、上記以外の戦略を採用することがあります。

※当戦略がベンチマークとする「ICE米ドルLIBOR1カ月指数(円ヘッジ後)」は、米ドル市場の短期金利を反映したものです。

※ベンチマークを上回る投資成果を保証するものではありません。

グローバル・マクロ・オポチュニティーズ運用戦略

- 主として、世界各国の株式、債券、通貨等にデリバティブ取引も活用しながら投資し、ベンチマーク(ICEユーロLIBOR1カ月指数(円ヘッジ後))を上回る投資成果をめざします。
- グローバルなマクロ環境に関する複数の投資テーマを選定し、当該テーマに沿った投資戦略を組み合わせた運用を行ないます。また、ロング・ポジション、ショート・ポジションの両方を活用して機動的なポートフォリオの構築を行ないます。

[投資プロセス]

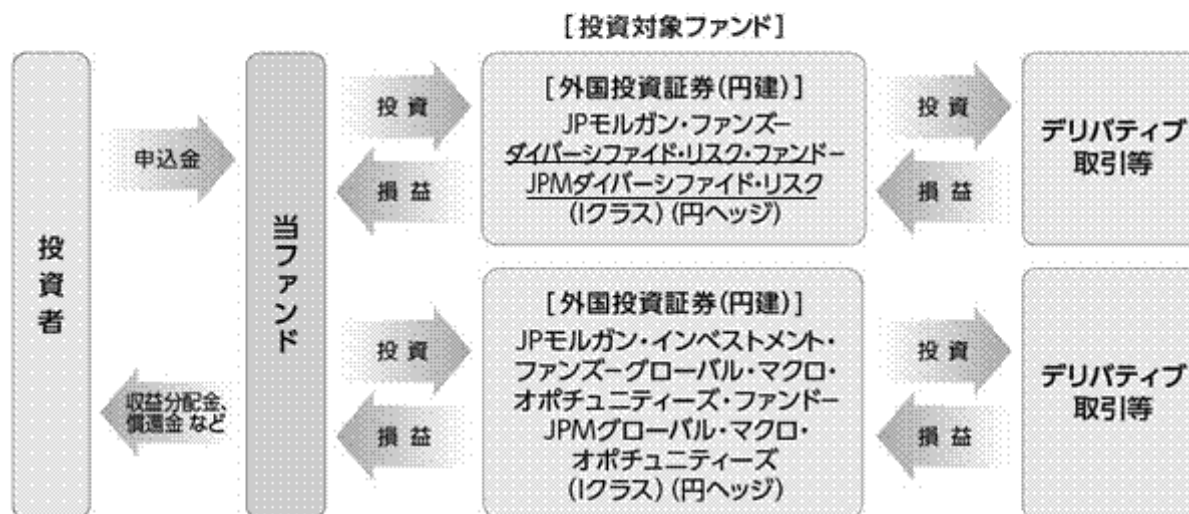
※当戦略がベンチマークとする「ICEユーロLIBOR1カ月指数(円ヘッジ後)」は、ユーロ市場の短期金利を反映したものです。

※ベンチマークを上回る投資成果を保証するものではありません。

※LIBORは2021年末をもって公表停止される旨、2021年3月に公表されています。このため、今後、両戦略のベンチマークは代替指数に変更される見込みです。

ファンドの仕組み

- 当ファンドは、以下の2本の投資証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- 投資対象とする投資証券への投資を通じて、デリバティブ取引等を活用します。



当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、ファンドの特色2.の運用が行なわれないことがあります。

< 投資対象ファンドの概要 >

1. JPモルガン・ファンズ - ダイバーシファイド・リスク・ファンド - JPMダイバーシファイド・リスク (1クラス) (円ヘッジ)

(以下「ダイバーシファイド・リスク・ファンド(円ヘッジ・クラス)」という場合があります。)

形態 / 表示通貨	ルクセンブルク籍の外国投資証券 / 円建
運用の基本方針	金融市場の行動パターンを利用し、主としてデリバティブ取引を活用することでベンチマーク（ICE米ドルLIBOR1カ月指数（円ヘッジ後））を上回るトータル・リターンを提供をめざします。
主要投資対象	世界各国の株式、債券、デリバティブ取引（通貨に係るものを含む）等
運用方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 金融市場の行動パターンを利用し、主としてデリバティブ取引を活用することでベンチマーク（ICE米ドルLIBOR1カ月指数（円ヘッジ後））を上回る投資成果をめざします。 2. 相関の低い値動きパターンに幅広く着目し、株式、債券、通貨など様々な資産へ実質的に投資を行ないます。投資にあたっては、複数の投資戦略を選定し、デリバティブ取引のほか、株式、債券等への直接投資も行ないます。 3. 市場環境等に応じて、デリバティブ取引等を通じたロング・ポジションとショート・ポジションの比率を変更します。 4. デリバティブ取引等を行なうことにより、ロング・ポジションとショート・ポジションの差額が外国投資法人の純資産総額を上回ることがあります。 5. ESG手法を用いた運用を行ないます。 6. 外国投資法人は様々な通貨建ての資産に投資することがあり、米ドル以外の通貨建て資産については当該通貨売り米ドル買いの為替取引を行なうことがあります。また、ダイバーシファイド・リスク・ファンド（円ヘッジ・クラス）においては、原則としてダイバーシファイド・リスク・ファンド（円ヘッジ・クラス）の純資産総額とほぼ同程度の米ドル売り円買い等の為替取引を行ない、円に対する米ドルの為替変動リスクの低減をめざします。

設定日	2021年4月23日
信託期間	無期限
決算日	毎年6月30日
収益分配	原則として分配を行いません。
管理報酬等	運用報酬:年率0.60% 管理報酬:年率上限0.16% ただし、この他に有価証券の売買にかかる費用・税金、臨時で発生する費用、その他の税金等が実費でかかります。
申込手数料	なし
信託財産留保額	なし
投資顧問会社	JPモルガン・アセット・マネジメント（UK）リミテッド

上記は目論見書作成時点での情報に基づくものであり、今後、記載内容が変更となる場合、投資対象ファンドが変更となる場合等があります。

当ファンドの投資対象ファンドであった「JPモルガン・ファンズ - システマティック・アルファ・ファンド - JPMシステマティック・アルファ（1クラス）（円ヘッジ）」は、2021年4月23日に、類似ファンドである「ダイバーシファイド・リスク・ファンド - JPMダイバーシファイド・リスク（1クラス）（円ヘッジ）」と統合しました。これに伴い、当該投資対象ファンドは「ダイバーシファイド・リスク・ファンド - JPMダイバーシファイド・リスク（1クラス）（円ヘッジ）」に変更となりました。

< 略 >

(2) 【ファンドの沿革】

< 訂正前 >

2016年9月26日 信託契約締結、当初自己設定、運用開始

< 略 >

< 訂正後 >

2016年9月26日 信託契約締結、当初自己設定、運用開始

2021年4月23日 「システマティック・アルファ・ファンド - JPMシステマティック・アルファ（1クラス）（円ヘッジ）」の「ダイバーシファイド・リスク・ファンド - JPMダイバーシファイド・リスク（1クラス）（円ヘッジ）」への統合による投資対象の変更

< 略 >

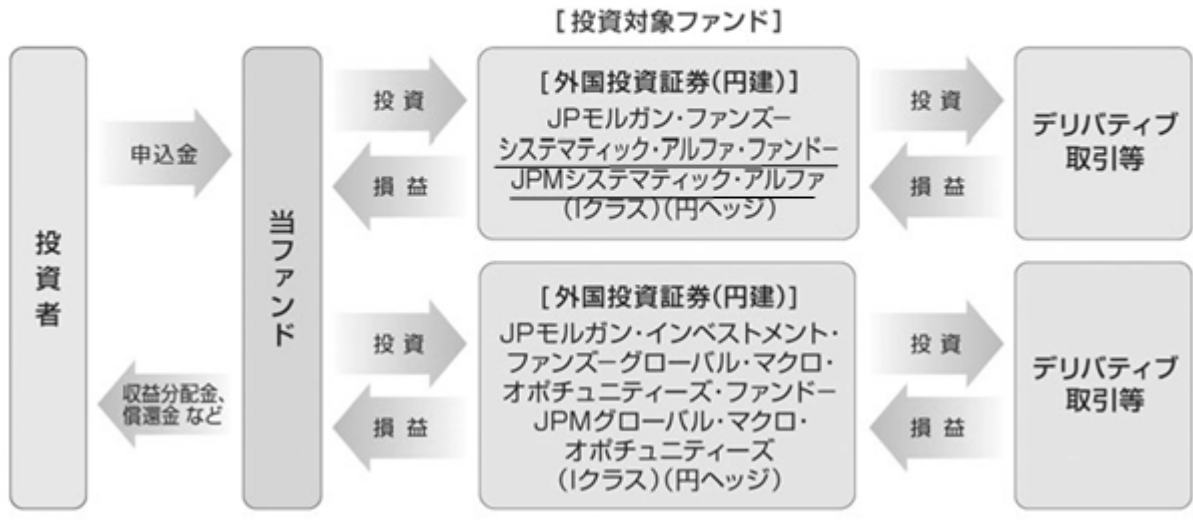
(3) 【ファンドの仕組み】

< 訂正前 >

< 略 >

ファンドの仕組み

- 当ファンドは、以下の2本の投資証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- 投資対象とする投資証券への投資を通じて、デリバティブ取引等を活用します。



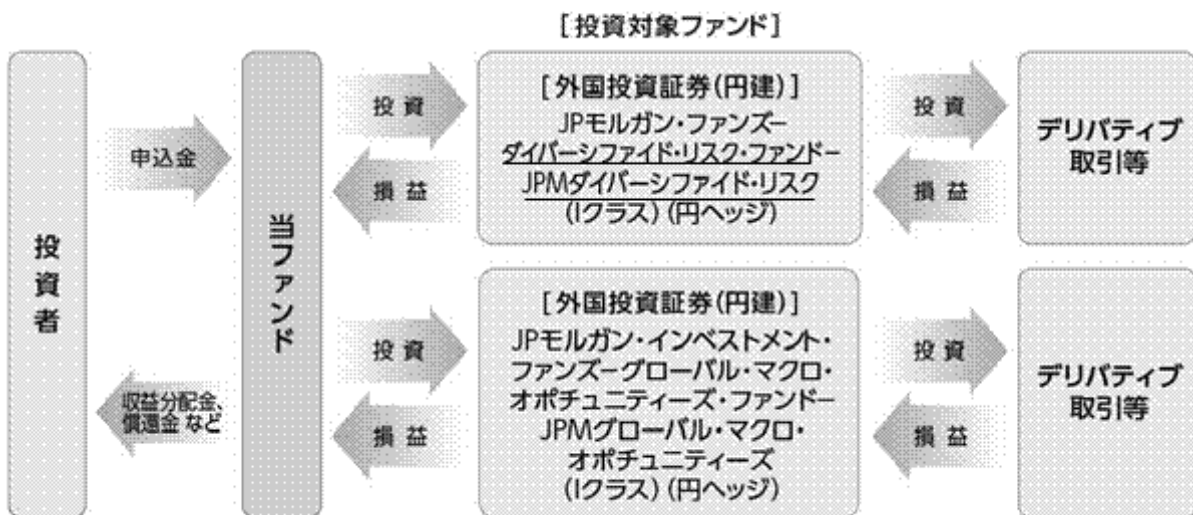
< 略 >

< 訂正後 >

< 略 >

ファンドの仕組み

- 当ファンドは、以下の2本の投資証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- 投資対象とする投資証券への投資を通じて、デリバティブ取引等を活用します。



< 略 >

2 【投資方針】

(1) 【投資方針】

< 訂正前 >

主要投資対象

次の有価証券を主要投資対象とします。

1. ルクセンブルク籍の外国証券投資法人「JPモルガン・ファンズ」が発行する「システムティック・アルファ・ファンド - JPMシステムティック・アルファ（1クラス）（円ヘッジ）」

（以下「システムティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）」といいます。）の投資証券（円建）

2. ルクセンブルク籍の外国証券投資法人「JPモルガン・インベストメント・ファンズ」が発行する「グローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンド - JPMグローバル・マクロ・オポチュニティーズ（1クラス）（円ヘッジ）」（以下「マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（円ヘッジ・クラス）」といいます。）の投資証券（円建）

投資態度

イ. 主として、システムティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）の投資証券およびマクロ・オポチュニティーズ・ファンド（円ヘッジ・クラス）の投資証券への投資を通じて、絶対収益の獲得をめざします。

ロ. 当ファンドは、システムティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）に信託財産の純資産総額の3分の2程度、マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（円ヘッジ・クラス）に信託財産の純資産総額の3分の1程度を投資するファンド・オブ・ファンズです。

ハ. システムティック・アルファ・ファンド（円ヘッジ・クラス）およびマクロ・オポチュニティーズ・ファンド（円ヘッジ・クラス）では、原則として純資産総額とほぼ同程度のユーロ売り/円買い等の為替取引を行なうことにより、円に対するユーロの為替変動リスクの低減をめざします。

ニ. 当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

< 投資先ファンドについて >

投資先ファンドの選定の方針は次のとおりです。

投資先ファンドの名称	「JPモルガン・ファンズ」が発行する「 <u>システムティック・アルファ・ファンド - JPMシステムティック・アルファ（1クラス）（円ヘッジ）</u> 」
選定の方針	金融市場の行動パターンを利用し、主としてデリバティブ取引を活用することでベンチマーク（ICEユーロLIBOR1カ月指数（円ヘッジ後））を上回る投資成果をめざすファンドである。

< 略 >

< 訂正後 >

主要投資対象

次の有価証券を主要投資対象とします。

1. ルクセンブルク籍の外国証券投資法人「JPモルガン・ファンズ」が発行する「ダイバーシファイド・リスク・ファンド - JPMダイバーシファイド・リスク（1クラス）（円ヘッジ）」

(以下「ダイバーシファイド・リスク・ファンド(円ヘッジ・クラス)」)の投資証券
(円建)

2. ルクセンブルク籍の外国証券投資法人「JPモルガン・インベストメント・ファンズ」が発行する「グローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンド - JPMグローバル・マクロ・オポチュニティーズ(1クラス)(円ヘッジ)」(以下「マクロ・オポチュニティーズ・ファンド(円ヘッジ・クラス)」)の投資証券(円建)

投資態度

- イ. 主として、ダイバーシファイド・リスク・ファンド(円ヘッジ・クラス)の投資証券およびマクロ・オポチュニティーズ・ファンド(円ヘッジ・クラス)の投資証券への投資を通じて、絶対収益の獲得をめざします。
- ロ. 当ファンドは、ダイバーシファイド・リスク・ファンド(円ヘッジ・クラス)に信託財産の純資産総額の3分の2程度、マクロ・オポチュニティーズ・ファンド(円ヘッジ・クラス)に信託財産の純資産総額の3分の1程度を投資するファンド・オブ・ファンズです。
- ハ. ダイバーシファイド・リスク・ファンド(円ヘッジ・クラス)では、原則として純資産総額とほぼ同程度の米ドル売り/円買い等の為替取引、マクロ・オポチュニティーズ・ファンド(円ヘッジ・クラス)では、原則として純資産総額とほぼ同程度のユーロ売り/円買い等の為替取引を行なうことにより、円に対する米ドルおよびユーロの為替変動リスクの低減をめざします。
- ニ. 当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

<投資先ファンドについて>

投資先ファンドの選定の方針は次のとおりです。

投資先ファンドの名称	「JPモルガン・ファンズ」が発行する「 <u>ダイバーシファイド・リスク・ファンド - JPMダイバーシファイド・リスク(1クラス)(円ヘッジ)</u> 」
選定の方針	金融市場の行動パターンを利用し、主としてデリバティブ取引を活用することでベンチマーク(ICE米ドルLIBOR1カ月指数(円ヘッジ後))を上回る投資成果をめざすファンドである。

< 略 >

(2) 【投資対象】

<訂正前>

< 略 >

委託会社は、信託金を、主として、次の1. および2. に掲げる外国投資証券(以下「組入外国投資証券」)といいますが、ならびに次の3. から5. までに掲げる有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することを指図することができます。

1. ルクセンブルク籍の外国証券投資法人「JPモルガン・ファンズ」が発行する「システムティック・アルファ・ファンド - JPMシステムティック・アルファ(1クラス)(円ヘッジ)」の投資証券(円建)

< 略 >

< 投資先ファンドについて >

ファンドの純資産総額の10%を超えて投資する可能性がある投資先ファンドの内容は次のとおりです。

投資先ファンドの名称	「JPモルガン・ファンズ」が発行する「システムティック・アルファ・ファンド - JPMシステムティック・アルファ（1クラス）（円ヘッジ）」
運用の基本方針	金融市場の行動パターンを利用し、主としてデリバティブ取引を活用することでベンチマーク（ICEユーロLIBOR1カ月指数（円ヘッジ後））を上回るトータル・リターンを提供をめざします。

< 略 >

< 訂正後 >

< 略 >

委託会社は、信託金を、主として、次の1. および2. に掲げる外国投資証券（以下「組入外国投資証券」といいます。）、ならびに次の3. から5. までに掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図することができます。

1. ルクセンブルク籍の外国証券投資法人「JPモルガン・ファンズ」が発行する「ダイバーシファイド・リスク・ファンド - JPMダイバーシファイド・リスク（1クラス）（円ヘッジ）」の投資証券（円建）

< 略 >

< 投資先ファンドについて >

ファンドの純資産総額の10%を超えて投資する可能性がある投資先ファンドの内容は次のとおりです。

投資先ファンドの名称	「JPモルガン・ファンズ」が発行する「 <u>ダイバーシファイド・リスク・ファンド - JPMダイバーシファイド・リスク（1クラス）（円ヘッジ）</u> 」
運用の基本方針	金融市場の行動パターンを利用し、主としてデリバティブ取引を活用することでベンチマーク（ICE米ドルLIBOR1カ月指数（円ヘッジ後））を上回るトータル・リターンを提供をめざします。

< 略 >

3 【投資リスク】

< 訂正前 >

< 略 >

外国証券への投資に伴うリスク

イ．為替リスク

投資対象ファンドはユーロでの運用を基本としているため、ユーロ売り／円買い等の為替取引によって為替変動リスクの低減をめざしますが、投資対象ファンドは運用者の判断によってユーロ以外の通貨（円を含みます）を組入れることもあります。このため、当該ユーロ以外の通貨がユーロに対して下落した場合、基準価額が下落する要因となります。

なお、ユーロ売り／円買いの為替ヘッジを行なう際、日本円の金利がユーロの金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

新興国通貨の為替レートは短期間で大幅に変動することがあり、先進国通貨と比較して、相対的に高い為替変動リスクがあります。

< 略 >

< 訂正後 >

< 略 >

外国証券への投資に伴うリスク

イ．為替リスク

投資対象ファンドは米ドルまたはユーロでの運用を基本としているため、米ドル・ユーロ売り／円買い等の為替取引によって為替変動リスクの低減をめざしますが、投資対象ファンドは運用者の判断によって米ドル・ユーロ以外の通貨（円を含みます）を組入れることもあります。このため、当該米ドル・ユーロ以外の通貨が米ドル・ユーロに対して下落した場合、基準価額が下落する要因となります。

なお、米ドル・ユーロ売り／円買いの為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が米ドル・ユーロの金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

新興国通貨の為替レートは短期間で大幅に変動することがあり、先進国通貨と比較して、相対的に高い為替変動リスクがあります。

< 略 >

5 【運用状況】

< 訂正前 >

< 略 >

(参考情報) 運用実績

●ダイワ/JPMオルタナティブ戦略オープン(ダイワ投資一任専用)

2020年12月30日現在

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移

基準価額	8,610円
純資産総額	10億円

基準価額の騰落率	
期間	ファンド
1カ月間	0.3%
3カ月間	0.4%
6カ月間	0.7%
1年間	-9.9%
3年間	-16.4%
5年間	-
設定来	-13.9%



※上記の「基準価額の騰落率」とは、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

分配の推移(10,000口当たり、税引前)

直近1年間分配金合計額: 0円

設定来分配金合計額: 0円

決算期	第1期	第2期	第3期	第4期				
	17年6月	18年6月	19年6月	20年6月				
分配金	0円	0円	0円	0円				

※分配金は、収益配分方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

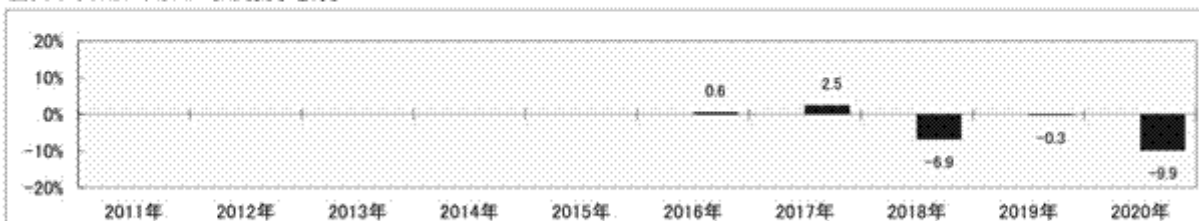
主要な資産の状況

※比率は、純資産総額に対するものです。

組入上位10ファンド		
運用会社名	ファンド名	比率
JPMオルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッド	JPMシステムティック・アルファ	65.1%
JPMオルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッド	JPMグローバル・マクロ・オポチュニティーズ	33.4%
合計		98.5%

年間収益率の推移

当ファンドにはベンチマークはありません。



※ファンドの「年間収益率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※2016年は設定日(9月26日)から年末、2020年は12月30日までの騰落率を表しています。

委託会社のホームページ等で運用状況が開示されている場合があります。

<訂正後>

<略>

(参考情報)運用実績

●ダイワ/JPMオルタナティブ戦略オープン(ダイワ投資一任専用)

2020年12月30日現在

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移

基準価額	8,810円
純資産総額	10億円

基準価額の騰落率	
期間	ファンド
1か月間	0.3%
3か月間	0.4%
6か月間	0.7%
1年間	-9.9%
3年間	-16.4%
5年間	-
設定来	-13.9%



※上記の「基準価額の騰落率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

分配の推移(10,000口当たり、税引前)

直近1年間分配金合計額: 0円

設定来分配金合計額: 0円

決算期	直近1年間分配金合計額: 0円				設定来分配金合計額: 0円			
	第1期 17年6月	第2期 18年6月	第3期 19年6月	第4期 20年6月				
分配金	0円	0円	0円	0円				

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

主要な資産の状況

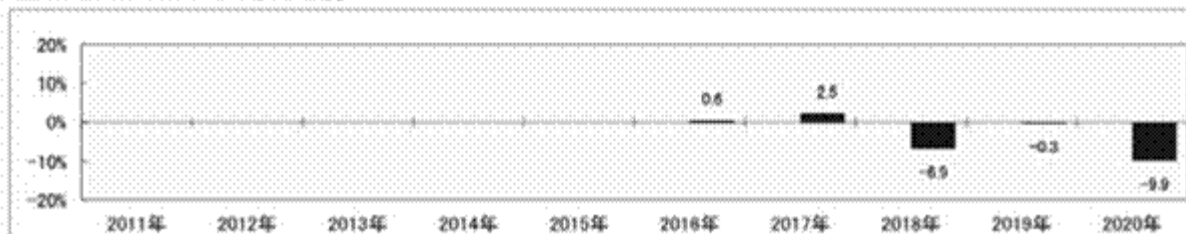
※比率は、純資産総額に対するものです。

組入上位10ファンド		
運用会社名	ファンド名	比率
JPモルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッド	JPMシステムティック・アルファ	65.1%
JPモルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッド	JPMグローバル・マクロ・オポチュニティーズ	33.4%
合計		98.5%

*「JPMシステムティック・アルファ」は2021年4月23日にファンド名が変更となりましたが、上記は2020年12月30日現在のファンド名で記載しております。

年間収益率の推移

当ファンドにはベンチマークはありません。



*ファンドの「年間収益率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

*2016年は設定日(9月26日)から年末、2020年は12月30日までの騰落率を表しています。

委託会社のホームページ等で運用状況が開示されている場合があります。